

F A B

【ファブ】

FREE AWAJI BOOK 8890

2025

8

淡路町を、神田を、
もっと楽しいまちに。

SPECIAL INTERVIEW

ブレケル・オスカル

日本茶に魅せられたスウェーデン人——
「一口の苦さ」から始まった物語





04

SPECIAL INTERVIEW

ブレケル・オスカル

12

ワテラスチューデントハウス

学生リーダー（2025年度）インタビュー

CONTENTS

10・KANDA ODEKAKE MAP

編集○橋口 丈

表紙写真○小林 玲

裏表紙イラスト○川目七生

Oscar Brekell
ブレケル・オスカル日本茶に魅せられたスウェーデン人——
「二口の苦さ」から始まった物語

高校時代に日本茶と出会い、その奥深さに魅せられた
スウェーデン出身のブレケル・オスカルさん。
言葉や文化を一から学び、いまでも日本茶の魅力を多くの人々に伝え続けている。
13年間日本に暮らした彼が見つけた、日本茶と日本文化の魅力とは——。

オスカルさんの日本との出会いはいつだった？

本格的に「日本」という国を意識し、興味を持ったのは高校時代です。きっかけは、世界史の授業で学んだ日本の明治時代でした。日本が近代化していく過程が、ドラマのように面白く感じられたんです。本を読むのが好きだったこともあり、図書館で日本に関する本を借りて読むようになりました。また、映画やドキュメンタリーなんかで日本を見ると、同じ近代化した国でも習慣や振る舞いが全く違っていて、それが興味深かった。お辞儀のような所作にはどこか惹かれるところがあり、日本に対して憧れのような気持ちを持っていました。

授業や本を通じて、日本を知ったのですか。

はい。でも、高校生だったので、すぐに日本に行けるわけではありません。それでも日本に対する憧れは消えることはなく、もっと五感を通して日本を感じたいと思ったんです。そこで出会ったのが「日本茶」で、18歳のときでした。スウェーデンでは、嗜好品としてはコーヒーを飲むのが一般的です。でも、私の両親は珍しく紅茶派で、家にはティーポットがあったので、「じゃあ、日本の緑茶を飲んでみよう」と思い立ち、紅茶専門店に行ってみました。たくさんの種類を取り揃えるお店だったので、緑茶もあったのですが、店員さんに淹れ方を聞いても「この茶葉については、全然わからないので、自分で試してみても」と言われて（笑）。

ブレケル・オスカル／Oscar Brekell
1985年スウェーデン生まれ。18歳で日本茶に出会う。ルンド大学日本語学科を経て岐阜大学に留学後、2013年に日本企業に就職。2014年に日本茶インストラクター資格を取得し、静岡での研修を経て外国人初の手揉み茶教師補となる。現在は日本茶ブランド「Senchaism」の展開や執筆、国内外でのPR活動に力を注いでいる。





写真（下段2枚）：オスカルさんが販売する LOVE AT FIRST SIP。
シナモンを思わせる香りと柔らかな甘さが人気。

スが良くて、程よい渋みと甘さがあって。
マグカップの中に森のような爽やかな香り
を感じました。

熱心な高校生だったのですね。

高校時代は誰にとっても変化の大きな時期
ですよ。勉強もあれば、恋愛の悩みもある。
加えて、私の場合、母が多発性硬化症
という病気を患っていました。10歳になる
頃には母は車椅子で生活するようになり、
介護や心配事が増え、恐らく普通の高校
生以上のストレスを感じていたと思います。
だからこそ、自分を慰めてくれる拠りど
ころが必要だったんです。その存在が、私に
とっては「お茶」だったのだと思います。

高校卒業後は、スウェーデンの Lund 大学
に進学されたのですね。

最初は大学で哲学を専攻しましたが、将来
何になりたいのかは分かっています。父は
弁護士として堅実な人生を歩んできました
が、「一度は海外で暮らしてみたい」と
話してくれました。私に「行きたい場
所があるなら、今がそのチャンスだよ」と
言ってくれたんです。その言葉が印象に残
り、アルバイトでお金を貯めて、日本へ旅

それで、家で淹れてみたんですね。

「これで日本を味わえる！」と期待に胸を
膨らませ、イギリス式のティーポットで淹
れて飲んでみたのですが、とにかく苦い！
薬のようで、香りも青臭くて。長い時間置
きすぎたんですね。飲んでときは、「どう
して日本人は、こんなのを喜んで飲んでい
るんだろう？」と思いました（笑）。私は今
自分のブランドで「LOVE AT FIRST SIP
（一口で恋に落ちる）」という名前のお茶を
販売していて人気なのですが、私自身の最
初の一口はむしろ「苦い経験」だったの

行することになりました。
初めての日本はどうでしたか？

すべてが新鮮で刺激的でした。特に日本の
食文化には驚きました。例えば「おでん」。
とても美味しいんだけど、一体何でできて
いるのか見当がつかない（笑）。お店の中
も外からは見えず、入ってみたいと分かん
ない。そんな日本の「ブラックボックス感」
が面白かったです。お茶への関心も高まり、
日本でたくさんのお茶を買いました。後日、
日本で知り合った友人がスウェーデンに遊
びに来た際、私のお茶のコレクションを見
て「そんなに好きなら日本茶インストラク
ターになったら？」と勧めてくれたんです。
そんな資格があるの知らなかった私は興
味津々で、若気の至りで「よし、やってみ



写真：橋口文 撮影

よう」と思ったものの、最大の壁は……や
はり日本語でした。

そのときはまだ日本語はできなかった？

はい。日本は好きでしたが、日本語は滞
中に覚えた簡単なフレーズくらいしかでき
ませんでした。そこで、Lund 大学の日本
語学科ではゼロから学び始めました。で
も日本語は本当にハードルが高く、最初60
人いたクラスが2年目には半分の30人に
（笑）。2年間の学びの後、岐阜大学に1年
間交換留学し、日本語と日本文化を学びま
した。それでも勉強の日々でしたが、その
おかげで日本語はかなり上達しました。

そのまま日本茶の道に？

いいえ。2年間、日本企業でサラリーマン
を経験しました。実は、岐阜大学で日本語
を学んだ後、日本茶インストラクターの試
験を受けましたが、結果は不合格。やはり
言語の壁は高く、合格には手が届きません
でした。不合格の通知が届いたのは、ス
ウェーデンに帰国する前日のこと。結果は
残念だったのですが、帰国する飛行機の中
で、「もっと現場を知りたい。茶摘みや工
場見学など、実体験が必要だ」と考え、も
う一度日本に住むことを決意。生活の基盤

を作るために、日本でサラリーマンになる
ことにしました。

サラリーマン時代はどうでしたか？

とても大変でした。サラリーマンとして
日々使う日本語は別次元。毎日知らない表
現に出会い、最初の3週間は泣きながら
帰っていました（笑）。私が入社したのは、
ノルウェーと取引のある会社で、スカンジ
ナビア言語・英語・日本語を話せる人材と
して採用されたのですが、実際に使うのは
ほとんど日本語ばかりで、新人の私が電話
応対もしなければなりません（笑）。
ただ、「3年間は絶対に日本にいたい」と
決めていたので、必死に働きました。この
経験のおかげで、今不自由なく日本語を使
えるようになったと思います。

その後、日本茶インストラクター試験に合
格された？

はい。サラリーマンになったその年に筆記
試験に合格し、翌年二次試験もクリアして
晴れて資格を取得。2年間のサラリーマン
生活を経て、日本茶をもっと学ぶために会
社を辞めて静岡へ移住し、静岡農林技術研
究所茶業研究センターで1年間研修生をし
ました。そこで様々な現場を体験し、日本

茶の知識を深めることができました。サラリーマン2年と静岡での1年の合計3年実は、ちょうど就労ビザが切れるこのタイミングでスウェーデンに帰るつもりでした。母国で、日本茶のネット販売や普及活動をしたと思っていました。しかし、ここで人生の転機がありました。ちょうどそのころ、日本茶輸出促進協議会という海外に向けて日本茶のPRをする組織ができ、「英語ができる専門家が需要」ということで、私にオファーをしてくれたんです。お話を



頂いたとき、これは願ってもないチャンスだと思い、帰国をやめ、引き続き日本に住むことにしました。
オスカルさんが、メディアに取り上げられたりしたのもそのころですか？

はい。静岡で研修をしていたころ、ローカルのテレビに出たりしました。静岡では、お茶が大切な産業で、かつ県民のアイデンティティでもあるので、新茶の時期なんかは特に取材が入ったりしました。日本茶に惹かれ、スウェーデンから移住して、日本語まで習得したっていう人はさすがにいなかったのですが、注目の的だと思っています。その後、日本茶輸出促進協議会で働きながら、メディアの仕事、講演の仕事、本の執筆などを両立していましたが、あるときから本業に支障をきたす量になってきたので、2018年に思い切って独立し、会社を立ち上げました。それが今私が経営している会社です。自分のブランドでお茶を販売したり、講演、執筆、カフェ向けのお茶の淹れ方のレクチャーなどを行っています。振り返ってみると、日本に来て13年、諦めるタイミングは何度もあったと思いますが、偶然の幸運が重なりここまで来られたのだ

と思います。

日本文化のど真ん中ともいえる日本茶に、スウェーデン人のオスカルさんが挑戦しているのが新鮮で面白いですね。スウェーデンの文化について少しお聞きしたいと思います。スウェーデンをはじめとする北欧諸国は、世界でも高い水準のウェルビーイングが達成されていることで知られていますね。

スウェーデンには「ラーゴム」という有名な考え方があります。「ちょうどよい」「ほどほど」といった意味で、何事もバランスよく保つことを大切にしている価値観です。ただ、北欧は極端な一面もあります。特に気候ですね。冬は長く、厳しく、自然環境は決して穏やかではありません。実際、ス



写真：橋口丈撮影。写真（下）はスウェーデンの首都ストックホルムの街並み。

ウエーデンは今でこそ豊かな福祉国家として知られていますが、150年ほど前までは、ヨーロッパでも貧しい国の一つでした。農作物も育ちにくく、食糧が手に入りくい環境だった。そうした背景があったからこそ、「頑張らなければ生きていけない」という生存意識が根底にあり、国や社会をより良くしようとする力につながったのではないのでしょうか。

その他には、スウェーデンの特徴はありますか？

日本との大きな違いは「フラットな社会」ということです。スウェーデンでは、上下関係があまりなく、先生にも「あなた」と呼べる文化があります。そのようなこともあり、スウェーデンでは、人と人との信頼関係が築かれるのが早いことが大きな特徴です。これは、政府と国民の関係にも表れていて、スウェーデンは税金が高い国ですが、人々は「それが社会に還元されるなら」と政府をある程度信頼し委ねることができてしまうんです。これは少し日本の方々には不思議がられることです。

なぜ、そのように信頼することができるのでしょうか？



理由は様々だと思います。ひとつには、民主主義になる前からスウェーデンでは人々が地域の意思決定に参画していた歴史から、人々は共同体のことを「自分ごと」として考えられる土壌があるのかもしれない。自分たちが決めたことだから、と。ですので、社会を良くするために、比較的新しいことにも積極的に取り組むことができているのではないのでしょうか。確かにスウェーデンをはじめ北欧諸国は、「幸せな国」として紹介されることが多いですが、私は日本には日本の良いところがあると思っています。

どんなところでしょつか？

私が好きなのは、日本人が持っている「ふとしたときの優しさ」です。日本人は内気

な人が多いので、初めて日本に来た人は気がつきにくいのですが、多くの人が思いやりや丁寧さを持っていて、私にはそれがとても素敵に感じる。言葉は少なくともちょっとした手助けや、心配りが自然に表れる。長く住んでいると、日常の小さな場面でもそれが見えてくるんです。

もう一つ、私が日本文化でとても好きなのが「ディテールへのこだわり」です。パッケージなんかでも細部まで美しく整えられていますよね。人々の所作もそうです。私に関わる日本茶は、それ自体強い味ではありませんが、飲めば飲むほどその繊細さに気がつきます。高校生のころの私は、そんな日本に憧れていたのではないのでしょうか。そして今、13年間日本に暮らして、そうした部分が自分にも少しずつ身についてきたような気がしています。日常の所作が変わると、自分の気持ちまで変わってくることに気づきました。私には、そんなひとつひとつのことが美しく見え、これが、日本流のウェルビーイングなんだと感じています。お茶を通じて、私も日本の文化を国内外に伝えられたらと思っています。

居心地のいいカフェ

Sta. 神田



千代田区神田須田町 1-25-4

【学生おすすめコメント】

ワテラスから徒歩5分ほど、川辺にある落ち着いた雰囲気のカフェになります。昼間に伺ったので、ランチプレートも頼むことができました。豆乳スープなど体に良いメニューで構成されていて、美味しく頂きました。店内は広々としていて落ち着いて話すことができます。

マーチエキュート 神田万世橋 1F

淡路坂珈琲

お茶の水店



千代田区神田淡路町 2-9

【学生おすすめコメント】

神田川沿いの赤レンガの高架下にたたずむ大人の隠れ家カフェ。香り豊かな珈琲に、自家製のサンドやスイーツも充実。朝早くから営業しており、静かな時間を過ごしたいときにぴったりの心地よい空間。

JR 紅梅橋高架下 4 号

上島珈琲店

御茶ノ水ワテラス店



千代田区神田淡路町 2-105

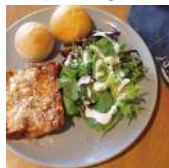
【学生おすすめコメント】

綺麗なオフィスの1階にありながら、リラックス出来る照明やBGMに包まれた、癒される秘密基地のようなカフェ。Wi-Fiやコンセントもあり、なんといってもバリバリのパンに包まれたサンドイッチがとても美味しい!

ワテラスアネックス 1F

104.5

Cafe, Dining&Bar



千代田区神田淡路町 2-101

【学生おすすめコメント】

落ち着いた雰囲気のカフェで、フレンチをベースにしたお料理は日替わりプレートからスイーツまで味だけでなく、見た目まで凝っており、目でも楽しめます! 席もカウンター席からソファ席まであり、一人でも、複数人でもオシャレな空間を満喫できます。

ワテラスタワー 2F

25年 4月号特集

Single O

KANDA AWAJI



千代田区神田淡路町 2-101

【学生おすすめコメント】

今年の春にオープンした「コーヒーをビアサーバーのように選んで注げる」、普通とは違うカフェ! 非日常感が味わえると同時に、店内は落ち着いた雰囲気の中でのんびりできます。元々コーヒーが苦手な私でも、すごく美味しく飲みやすい種類があり、認識が改まりました。

ワテラスタワー 3F

9/14 まで改装につき休業

NEW YORKER'S Cafe 駿河台 4丁目店



千代田区神田駿河台 4-1-1

【学生おすすめコメント】

御茶ノ水駅や淡路町駅からアクセスしやすく、広々とした店内でゆったり過ごせるカフェです。カウンター席からソファ席まで充実しており、電源やWi-Fiも完備されています。サンドイッチやスイーツなどの軽食や、種類豊富なドリンクも楽しめるのが嬉しいですね。

ウエルトンビル 1F

淡路町カフェ

カブチャット・ロッソ



千代田区神田淡路町 2-1

【学生おすすめコメント】

ラテアートで猫などが描かれ、ハイクオリティで可愛い。パスタの種類の種類もスバゲッティだけでなく、フリッジやコンキリエなどがあり、他のお店では味わえないパスタを楽しむことができます。お店の雰囲気も雑貨などが可愛くて、女性におすすめです!

クオリア御茶ノ水 1F



ワテラスチューデントハウスの25年度学生リーダー

森健人さん・小野響子さん・鈴木真輝さん・松山玲子さん。

今年の学生活動の展望について4名にお話をうかがいました。



ワテラスチューデントハウスの森健人さん(左上)・小野響子さん(右上)・鈴木真輝さん(右下)・松山玲子さん(左下)

今年度のチューデントハウスのビジョンを教えてください。

森 2025年度の目標として掲げたのは、「日常からはじまる「わ」の愛着を育て、交流が続く関係性に」というテーマです。年度のはじめにリーダー4人で話し合い、まず大切にしたいと思ったのは「学生同士のつながりを深めること」でした。チューデントハウスには36名の学生が暮らしていますが、大学や学部もバラバラで、アルバイトの都合もあり、学生同士が集まる機会は必ずしも多くないんです。だからこそ、無理のない形で自然につながる場づくりが必要だと感じていました。

小野 これまでは、どうしても仲の良い人同士で集まりがちでした。リーダーとしては、普段あまり関わりのない学生同士が繋がるきっかけを増やしていきたいと思っています。そこで、最近ではディスコードというチャットツールを活用しながら、様々な企画への参加を呼びかけています。たとえば「ランニング部」は、皇居やスカイツリーといった東京の名所を走る企画で、新しいメンバーも参加しています。

松山 月に一度の「定例会」は、もともとは情報共有のための場でしたが、今年からはこの時間を活用して、交流の機会にもしていこうと考えています。最近「桃スイーツ



思います。

松山 私が印象に残っているのは、千代田区の「はあとサロン」に参加したことです。高齢者を中心に地域の方々が集まり、おしゃべりや簡単なゲームを楽しむ場なのですが、私たち学生も交じって一緒に話したり、ボードゲームをしたりしました。驚いたのは、皆さんが私たちの参加を喜んでくださったこと。学生の関わりが、地域への愛着を深めるきっかけになれるのかもしれないと感じました。限られた学生生活のなかで、こうした機会に積極的に関わっていききたいと思っています。



を作る会」を開催しました。スイーツ好きな学生が中心になって準備し、和やかな雰囲気なかで自然と会話が生まれました。こうした日常の延長にある交流

を、これからも広げていきたいです。

鈴木 最近では、共有スペースであるラウンジを利用する学生が増えてきたように感じます。先日は、料理の得意な学生が中心となって「フレンチのコース料理を作ろう」という企画を実施してくれました。スチューデントハウスの学生は、地域活動にも関わっていますが、学生同士の関係性が良いことは、地域活動の質にもつながると実感しています。

今年度、地域活動では、どのような取り組みを進めていきたいですか？

森 今年は神田祭が行われ、私たち学生も参加させていただきました。ものすごい熱気で感動しました。町会の皆さんも温かく迎えてくださり、今では個人的に食事に誘っ

ていただくこともあります。楽しみながら地域に関わることで、愛着が生まれ、いずれば「第二の故郷」と感じられるようになると思います。小さな積み重ねですが、確かな手応えを感じています。

小野 私自身は、森くんのように町会の方々とご飯に行くところまではいっていませんが、地域の方を見かけたときは、学生のほうから積極的に声をかけていくことが大事だと思います。私はスチューデントハウス3年目で、今では一番の先輩なので、そうした姿勢を見せていけたらと思っています。

鈴木 私個人は、今年ボランティア活動をとっても楽しめています。地域の方々とまだまだ親しくなれると思っています。些細なことから、会話が生まれていくということを昨年参加した千代田区民体育大会で経験しました。その活動で知り合った方を、別の活動で見かけたときに、自然と会話が生まれたんです。相手の方が覚えてくださっているかは分からないときもあるのですが、積極的に声をかけると、相手も応えてくださるだろうと思っています。今年は、学生の仲を深めることと、地域活動への取り組みを両輪として取り組んでいきたいと



ハートマークのつもりでしたが、四つ葉のクローバーに。

BOOGIE BON BEAT!

日時: 9月19日(金) 17:00-21:00 / 20日(土) 15:00-20:00 場所: 1F ワテラス広場

初心者
大歓迎

ピアノの伴奏に乗せて楽器を演奏してみたい方
一緒に音を奏でる楽しさを味わいましょう

奏でて、つくろう
OTONOWA CRAFT MUSIC vol.3

演奏会
 2025 11/30 (日)
 13:30~15:30
 ワテラスコモンホール

参加費
 本番参加料 + リハーサル 1 回分
 3,000 円 (ワテラス在勤・在住者)
 2,000 円

募集期間
 8/21(木)~9/15(月・祝)

フォンリターナー・楽器演奏者
 高瀬 文

参加の流れ
 お申込み (ワテラスHP) → リハーサル日時調整 事前譜面提出 → リハーサル参加 (ひとり 30 分) → 演奏会参加

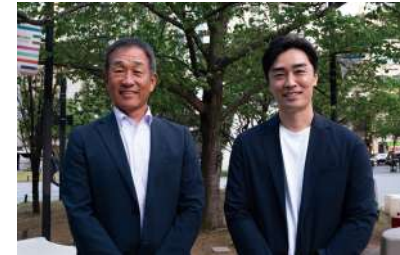
申込・詳細は
 ワテラスHPにて

4~7月に開催したワテカツイベントをご紹介します。
 皆様のご参加、心よりお待ちしております！



WATEKATSU

04.21 Mon. 辻発彦さん × 和田毅さん
 「対談 プロ野球 2025」



昨年大好評のプロ野球対談イベント第2弾！元埼玉西武ライオンズ監督の辻発彦さんと昨年惜しまれつつ現役を引退した和田毅さんによる対談を開催しました。内容は、すばり2025年のペナントレース予想。和田さんの現役時代には、ライバルチームの監督と選手だったというお二人によるトークに、多くのプロ野球ファンが集まり、大盛況となりました。

06.10 Tue.
 「梅雨のむくみ解消 全身リフレッシュヨガ」

季節の変わり目に感じやすい身体のだるさやむくみ。「お仕事帰りに気軽に立ち寄れる」をコンセプトに、ワテカツでは初めてのヨガイベントを開催しました。講師には、ヨガインストラクターの石川みほさんをお招きし、全身の巡りを促進するレッスンを実施。ストレスがたまりがちな6月にぴったりのマインドフルネスな1時間となりました。



07.16 Wed.
 「見て、聞いて、スイングが変わる！三浦桃香 ゴルフお悩み相談室」

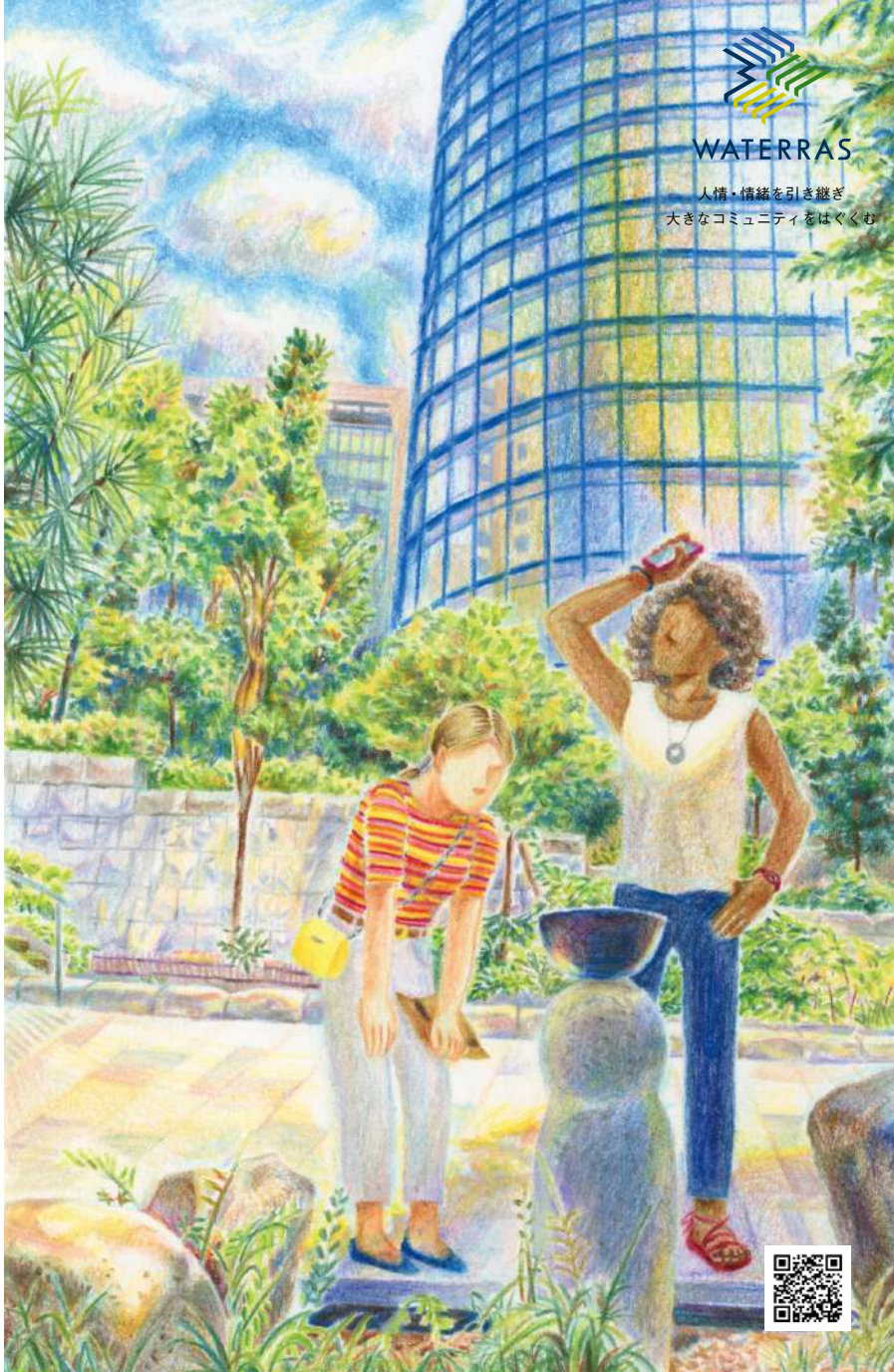


わかりやすいティーチングに定評があり、様々なメディアで人気の三浦桃香プロがワテカツに登壇！今回は、事前に参加者から募った質問をもとに、アマチュアのゴルフ上達に関する疑問に、スイングの実演を交えながら答えていただきました。当日は多くのゴルフファンが集合。三浦さんのわかりやすい解説に、まさに目から鱗が落ちるような時間となりました。



WATERRAS

人情・情緒を引き継ぎ
大きなコミュニティをはぐくむ



FAB

17771

フリーマガジン 8890
No.46 (2025.08.20 発行)

発行：一般社団法人 浜路エリアマネジメント
〒101-0063 東京都千代田区神田浜路町2-105 ワテラスアネックス1311
TEL.03-3254-2440

www.waterras.com

¥0